

# 令和3年度 年間指導計画(シラバス)

教科名	公民	科目名	現代社会	単位数	2	履修学年・クラス	1年全クラス
担当者				使用教材	『現代社会』(東京書籍) 『最新図説現社』(浜島書店)		

## 1. 学習目標

人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力を育てる。

## 2. 学習方法

授業は教科書・ノート・プリント・資料集を使う。授業に積極的に参加し、よく考える。また、単元ごとに確認プリントをおこなうので、日々の授業で覚えるべき事項はその場でしっかり覚えておくこと。グラフ・年表の読み取りや、新聞などにより時事問題の基礎的な内容も学習する。以上のように多面的な学習をするので、試験前に必ず学習内容を復習し、試験に備えること。

## 3. 学習評価

評価の観点	関	関心・意欲・態度	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加・協力する態度を身につけ、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。
	思	思考・判断・表現	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。
	技	技能	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通じて収集し、有用な情報を主体的に選択して活用し、学び方を身につけている。
	知	知識・理解	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や学び方を理解し、その知識を身につけている。

## 4. 学習計画

学期	内容のまとまり	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				関	思	技	知		
前期	前期中間	第1部 わたしたちの生きる社会		○	○	○	○	関: 現代の地球環境問題に関心を持ち、地球環境が抱える諸課題のしくみを理解し、今後の取り組みについて考察しているか。 思: 地球環境の諸課題と身近にある環境問題を関連づけて、その課題を見出し、将来世代のために何ができるか自覚しているか。 技: 環境問題の発生メカニズムと人間の経済活動の関連をとらえられたか。 知: 地球全体の環境問題を数値資料や記録資料からとらえることができ、環境対策の数値目標の意味を理解しているか。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		第1章 青年期の自己形成の課題 1 現代社会と青年の生き方	①現代社会の特質 ②現代社会における青年 ③自己形成と社会とのかわり ④進路と生きかひの創造	○	○	○	○	関: 青年期にある自分の在り方生き方に関心を持ち、社会と自分とのかわりを主体的に考察したか。 思: 青年期の心理的特質を理解し、職業や社会参加に向けて自己形成の課題を見出したか。 技: 青年期の自己形成の課題と社会が期待する人間像とのかわりをとらえ、その歴史的変遷を理解したか。 知: 青年期を考える作品を通して、現代社会における青年期の特質と課題をとらえたか。	
		第2部・第1章 2 よりよく生きることを求めて	①哲学と人間 ②宗教と人間 ③近代科学の考え方 ④人間の尊厳 ⑤人間性の回復を求めて ⑥日本の伝統思想の考え方 ⑦外来思想の受容と日本人の自覚	○	○	○	○		
	前期末	第2章 日本国憲法と民主政治 1 民主政治とは	①民主政治の確立 ②基本的人権の確立 ③世界の政治体制	○	○	○	○	関: 人権思想と近代国家の発展の歴史に関心を持ち、基本的人権の尊重や民主主義における人間の在り方について考察しようとしたか。 思: 近代政治と人権保障の歩みを理解し、国民主権、多数決原理、権力分立など民主政治の基本原理を見出したか。 技: 近代の人権思想の歩みと民主主義国家の政治原理を、現実の政治機構とのかかわりをとらえたか。	
		2 日本国憲法の基本原理	①日本国憲法と3つの原理 ②基本的人権の保障(1) ③基本的人権の保障(2) ④新しい人権と人権保障の進展 ⑤平和主義と安全保障	○	○	○	○	知: 近代民主政治の歩みを歴史的宣言文書や思想家の考えを通して、民主主義の原理の形成過程をとらえたか。	
		3 日本の政治機構	①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治	○	○	○	○		
		4 現代政治の特質と課題	①選挙のしくみと課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治参加	○	○	○	○		

後 期	後 期 中 間	第2部・第3章	1個人の尊重と法の支配	①法の支配と人権	○				関： 個人の尊重を基礎として、自由や権利、責任と義務、人間の尊厳と平等、法と規範の意味などを意欲的に追求したか。 民主社会を主体的に生きる個人として、法やその他の規範の内容を吟味し、よりよいものにしていこうとする努力が大切であることを自覚したか。 思： 法の一般性、明確性などが備えるべき特質を理解したうえで、法の適切さを考える視点を身につけたか。 技： 日常生活と法とが密接に関連していることを、具体的な事例を踏まえ理解したか。 知： 現代の市場経済の現状と特質に関心をもち、自ら経済活動の主体として現代日本の金融・財政問題について、意欲的に追求しようとしたか。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査			
			②市民生活と法		○								
			③司法と人権			○							
			④他者とともに生きる				○						
		第2部・第4章	1経済のしくみ	①経済社会の変容	○								
			②現代の企業			○							
	後 期 末	第2部・第5章	1国際経済のしくみと動向	③市場経済のしくみ									
				④国民所得と経済成長	○								
				⑤金融のしくみと働き			○						
				⑥中央銀行の役割と財政			○	○	○				
				⑦政府の役割と財政				○	○		○		
			2変化する日本経済	①戦後復興と高度経済成長									
②産業構造の転換と国際経済環境の変化													
③経済のパル化とその後													
④日本経済の現在				○	○								
⑤中小企業と農業				○	○								
3豊かな生活の実現	①自立した消費者への道												
	②労働者の権利	○	○										
	③現代の雇用・労働問題	○	○										
	④社会保障の役割	○	○										
	⑤環境保全と循環型社会	○	○										
後 期 末	第2部・第5章	1国際経済のしくみと動向	①貿易と国際分業										
			②外国為替のしくみと国際収支			○							
			③戦後国際経済の枠組みとその変化				○						
			④対立と協調の時代										
			⑤グローバル化の進展										
		2国際政治のしくみと動向	①国際社会の成り立ち										
			②国際紛争を避けるしくみ										
			③国際連合の現状と課題										
			④東西対立とその後の世界	○	○								
		3国際社会の現状と課題	⑤核兵器と軍縮への取り組み										
			①地域連合の進展	○	○								
			②多様化する世界経済	○	○								
③南北問題	○		○										
④人口・資源・食料問題													
⑤民族問題と紛争													
⑥国際社会と人権													
⑦日本の役割	○	○											